

令和3年度 第2回天王寺区教育会議（会議要旨）

日 時：令和4年3月22日（火）19時30分～20時45分

場 所：天王寺区役所 講堂

出席者：[学校協議会]

田原委員（夕陽丘中）、井澤委員（五条小）、法嶋委員（桃陽小）

[区政会議子育て・教育班]

石野委員、植田委員、大野委員、岡崎委員、児玉委員、飛田委員

[学校] 鬼塚校長（五条小）、中務校長（夕陽丘中）

[区役所] 加藤 区担当教育次長、高野 区教育担当部長、渡邊 区教育担当課長、

岩上 区教育担当課長、寺戸 区教育担当課長代理、森本 区教育担当課長代理

傍聴者・報道関係者：なし

○今年度の教育に関する取組について、渡邊 区教育担当課長より説明

○意見交換

➤中学校キャリア教育の支援について

- ・ 中学校合同文化祭は、学校間の連携や生徒同士の交流として非常に良い取組であったので、次年度以降もぜひ開催していただきたい。

➤こどもサポートネット事業について

- ・ 他区と比較すると地域との連携が希薄である。民生委員や主任児童委員など地域ともっと連携して取り組んでいただきたい。
- ・ 地域が関わるような案件がないだけなのかもしれないが、地域からはスクールソーシャルワーカーや推進員の動きが見えてこない。

➤スクールカウンセラー事業について

- ・ カウンセラーの増員は有意義と感じる。学年によってカウンセラーの人数を増やしたり、日常の学校生活の中でも、いじめの相談ができるよう体制を拡充していただきたい。
- ・ カウンセラーとカウンセリングを受ける児童生徒の相性が合わないことも考えられる。そのような場合に、カウンセラーを変えたり、他で相談できたりすると有難い。

➤グローバル人材の育成について

- ・ 海外と比べると日本人で複数の言語を話せる人が少ない。小さい頃からネイティブに教えてもらえる環境づくりが必要。
- ・ 年齢が小さくなれば難しい内容もあると思うので、イベントや地域の資源を活用するなど楽しい内容にしてはどうか。
- ・ 目的に対して内容が中途半端に感じる。子ども相手に伝えたい、感じたいという意識を持てる内容にしてはどうか。

- ・ 英語は学校教育の中で行われているとのことだが、海外の人との生活様式の違いなどを知ることや、小さいころから海外の人との交流に慣れておくことは重要。そのために海外の人と遊びなどを通して接する機会を設けることが必要。
- ・ 海外の人とコミュニケーションをとることはもちろん大切なことだが、ウイットネスの感性を磨くことや自分の国について語れるようにすることも大切なことと考える。
- ・ 予算が大幅に減額されているが具体的にどのような取組を考えているのか。
- ・ 予算の大幅な減額は費用対効果の関係で見直さざるを得ないということか。
→ 今年度予算のほとんどは実施事業者への委託料であり、子どもの参加が少なくなってきたので実施手法を見直すことにした。次年度は、区内にある大阪国際交流センターとも連携をしながら、小学校に外国人や外国文化を体験した方などを派遣し、外国の言語や文化を知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけとなることをめざす。次年度は試行的に実施し、本格実施につなげていきたい。

➤天王寺区ジュニアクラブ事業について

- ・ ジュニアクラブの活動でも外国人との交流に取り組んでおり、予算を増額して内容をもっと充実していただきたい。また、知らない人が多いので、チラシ・ポスターのデザインを変更するなど周知方法に工夫が必要と感じる。

➤こどもの居場所等における学び・生活サポート事業について

- ・ 天王寺区は全般的に学力の高い子どもが多いが、一定支援の必要な子どもはいる。このような学習や生活支援の場がさらに増えるとよい。そのための経費は必要。

➤民間事業者を活用した中学生学習支援事業について

- ・ 現在2か所で実施しているが、もう1か所増やして3か所でできたらなお良い。

➤防災教育の取組について

- ・ 地域での防災の取組を区から地域活動協議会に対し交付される補助金で実施している。補助金については制約があるが、使い勝手のよい制度となれば有難い。

➤その他

- ・ 学校選択制により地域での交流が難しいと感じることがあり、学校選択制で別の地域の学校に通う子どもが地元の地域で交流できるような取組がほしい。